学校番号	302

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	書き込みシリーズ【基本～標準】　パラレルノート数学Ⅰ＋Ａ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・基本的に１年次に学習した内容の復習です。数学Ⅱを学習したうえでの学習となるので多くの知識を活用して解くことができるようになっています。頑張りましょう。
・積極的に授業に参加し、分からないところはそのままにせず、先生、友人に積極的に質問しましょう。逆に分かっている人は積極的に分からない人に教えましょう。他人に教えることで、問題のポイントやミスしやすい箇所などに注目することができるので、自分の理解も深まります。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
数と式、2 次関数、図形と計量、場合の数と確率、図形の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
【思考力、判断力、表現力等】
事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、2 次関数、図形と計量、場合の数と確率、図形の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数Ⅰ 第1章 数と式	1. 展開 2. 因数分解 3. 実数 4. 不等式	a:文字の意味や不等式の性質及び１次不等式とその解の意味を理解し、解を求めるための基礎的な知識を身に付けている。 b: 不等式の性質を利用して、不等式・連立１次不等式の解を求めることができる。 c: 数量の関係を不等式で表すことのよさを捉え、それらを具体的な事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	 提出ノート 提出課題 観察
	数Ⅰ 第3章 2次関数	5. グラフ 6. 最大・最小 7. 2次関数の決定 8. 2次方程式 9. 2次不等式	a:２次不等式の解の意味を２次関数のグラフとの関係から理解している。 b:判別式の意義を理解し、考察することができる。２次不等式の解を２次関数のグラフを用いて考察することができる。 c:２次関数のグラフと x 軸の位置関係を基に、２次方程式の解や２次不等式の解について考察しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	 提出ノート 提出課題 観察

2学期	数A 第1章 場合の数と確率	1. 集合 2. 順列 3. 組合せ 4. 確率	a:具体的な事象を基に順列や組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。 b:順列や積の法則を基にして、円順列、重複順列を考察することができる。 c:順列と組合せの違いに興味・関心をもち、同じものを含む順列の総数などを求めるときに活用しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察
3学期	数A 第2章 図形の性質	1. 外心・内心・重心 2. 円周角 3. 接線 4. 方べきの定理	a:三角形に関する基本的な性質を理解し、比や長さを求めることができる。 b:図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察・説明したりすることができる。 c: 三角形や円に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度